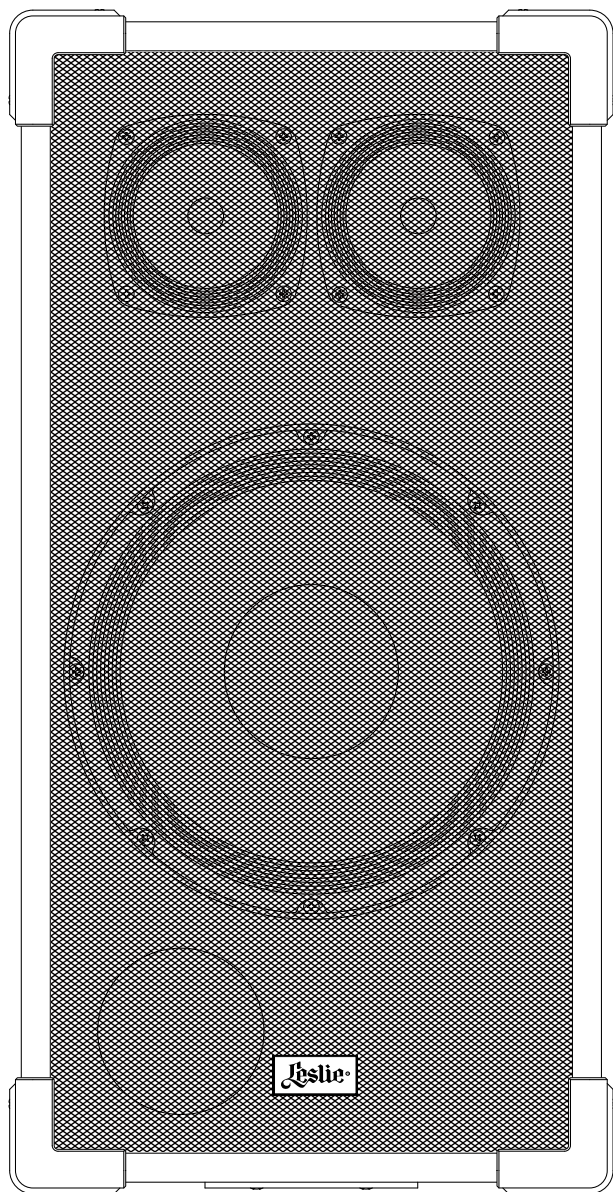


Leslie®

Stationary Speaker

アンサンブルアンプ

SPA-150R-L



この度はレスリー・ステーションナリースピーカー／アンサンブルアンプ SPA-150R-L をご購入あげいただきまして誠にありがとうございます。本機は4チャンネルミキサー、残響効果を装備し、出力150W、2ウェイ3スピーカーを搭載しており、幅広い拡声用途にお使い頂けます。

本製品を末永く、そして安全にご使用いただくため、この取扱説明書をよくお読みください。

お読みになった取扱説明書は、大切に保管してください。

目次

安全上のご注意	2
各部の名称と働き	4
接続例.....	6
ハーモニカソロでの使用例	6
本機を連結してパワーアップする	6
ハーモニカアンサンブルでの使用例	7
大正琴アンサンブル（小編成）での使用例	8
大正琴アンサンブル（大編成）での使用例	9
大正琴邦楽アンサンブルでの使用例	10
大正琴ダイレクトボックスの使用例	11
アンサンブルキーボードの使用例	12
シングルキーボードの使用例	13
レスリースピーカーのステーションナリーユニットとして	14
ブロックダイアグラム、周波数特性	14
仕様	15
本機の特長	15
アフターサービスについて	16

取扱説明書

安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使い下さい。
- お読みになった後は、必ず保存して下さい。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、下記の指示を必ず守って下さい。
- 本書では、危険や損害の程度を次の区分で表示し、説明しています。

	警告	この表示内容が無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。
	注意	この表示内容が無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的障害が発生する可能性が想定されます。

この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、機器喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。



警告



電源は必ず交流 100V でご使用下さい

交流 100V 以外の電圧でご使用になると、火災や感電の恐れがあります。



異常を感じたら電源を切して下さい

万一異臭や発熱などの異常を感じたときは、電源を切り電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ販売店やスズキ各営業所にご連絡下さい。

異常状態でのご使用は火災・感電の原因となります。



異物が入ったときは、電源プラグを抜いて下さい

製品に異物（硬貨や針金）や液体（水やジュースなど）を入れないようにして下さい。

故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあり大変危険です。

万一、異物が内部に入ったときは直ちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ販売店またはスズキ各営業所にご連絡下さい。



改造・分解は危険です

改造や分解はしないで下さい。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあり大変危険です。



濡れた手で触れないで下さい

濡れた手で電源プラグ・コード及び本体に触れないで下さい。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあり大変危険です。



湿気の多い場所は避けて下さい

水分や湿気の多い場所では絶対に使用・保管しないでください。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあり大変危険です。



ほこりの多い場所は避けて下さい

ほこりの多い場所での使用は避けて下さい。故障や発火の原因になることがあります。

また電源プラグにほこりが付いている場合、そのまま使用すると感電などの原因となりますので、ほこりを拭き取ってからご使用下さい。



● 次のような場合はただちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ販売店またはスズキ各営業所にご連絡下さい。

■ 電源コードやプラグが破損したとき

■ 異物や液体が中に入ったとき

■ 機器が雨その他で濡れたとき

■ 機器に異常が発生したとき

注意



熱くなる場所を避けて下さい

自動車の中や暖房器具のすぐ近くなど、極端に熱くなるところでの使用、保管は避けて下さい。変形・故障の原因になることがあります。



放熱を妨げないで下さい

設置時は放熱をよくするために、背面と壁や他の機器との間に 20cm 以上の隙間をあけて下さい。放熱が不十分だと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



衝撃を与えないで下さい

製品をぶつけたり、落としたりしないで下さい。製品に傷を付けるだけでなく故障の原因になります。



製品の上に乗ったり、重いものを乗せたりしないで下さい

製品が破損する原因にもなりますし、製品が転倒したりしてお客様がケガをする危険性があります。



不安定な場所に置かないで下さい

製品を不安定な場所に置かないで下さい。転倒・落下して、お客様がケガをする危険性があります。



移動の際には接続ケーブルをすべて外して下さい

移動させるときは電源プラグ、接続ケーブルはすべて外して下さい。コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



使わないときは電源プラグを抜いて下さい

ご使用の後は電源スイッチを切して下さい。長時間使用しないときや落雷の恐れがある場合は、製品保護のためコンセントから電源プラグを抜いて下さい。



コードは引っ張らないで下さい

電源コードの上に物を置いたり、引っ張ったりしないで下さい。

また電源プラグをコンセントから抜くときは電源コードではなく、必ず電源プラグを持って引き抜いて下さい。電源コードが傷つき、感電などの原因になり大変危険です。



お手入れは柔らかい布で

お手入れは柔らかい布でから拭きしてください。アルコール・シンナー・ベンジン等は製品を傷めますので絶対に使用しないで下さい。



接続時は電源を切って

各機器との接続時は、接続するすべて機器の電源を切して下さい。それぞれの機器の取扱説明書に従い、指定のコードを使用して接続して下さい。

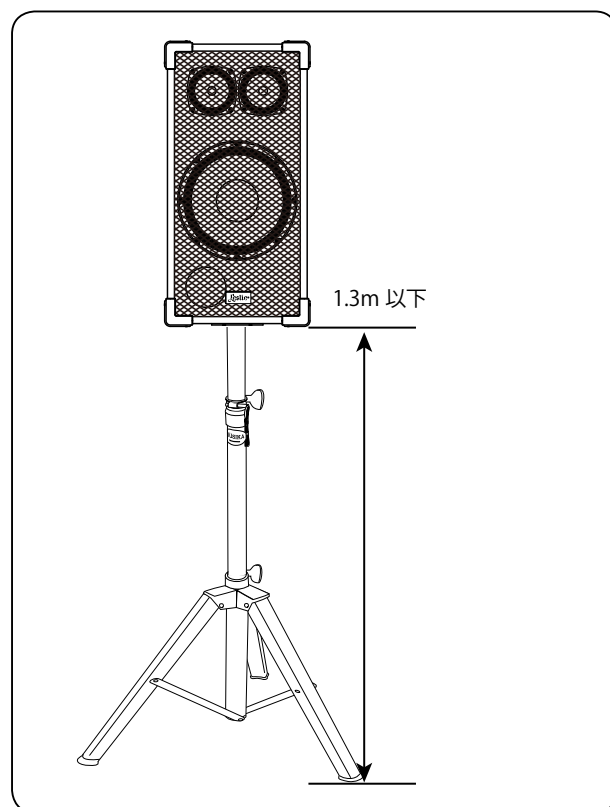
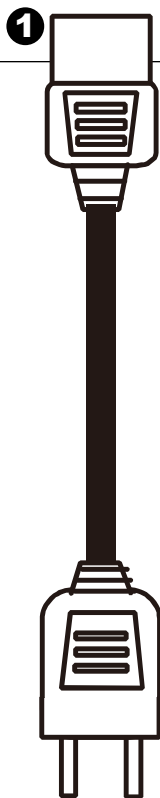
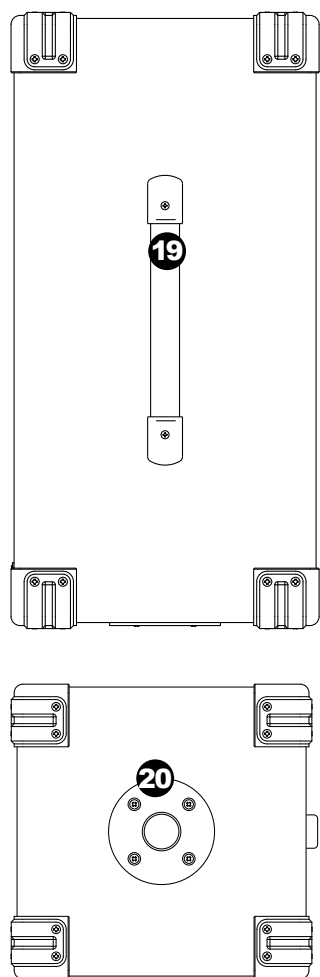
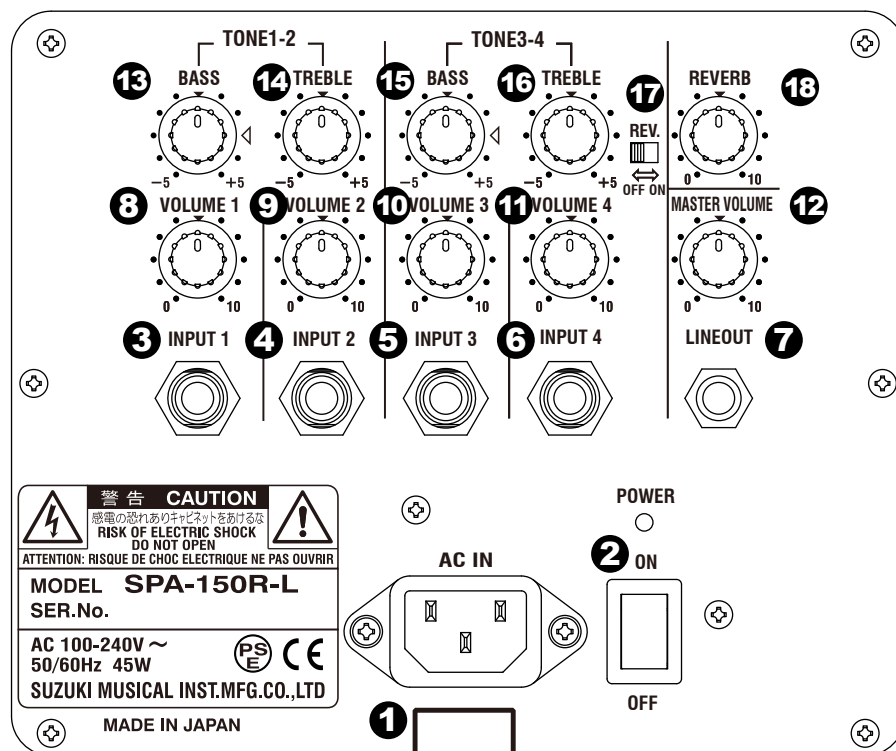
電源を入れる前に音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害を引き起こす恐れがあります。



大音量に注意

不快に感じるような大音量では、使用しないで下さい。この機器は大音量での使用により、聴覚障害を引き起こす恐れがあります。

各部の名称と働き



①電源コード

本機の動作には電源が必要です。ご使用時には、電源コードを AC IN 端子に接続し、電源プラグを AC100V コンセントにしっかりと差し込んでください。ご使用後は、電源プラグを持ってコンセントから抜いてください。

②POWER スイッチ

本機の電源を「ON / OFF」するスイッチです。本機の通電時には POWER スイッチ上のランプが点灯します。

各機器を接続するときは雑音を防ぐため、本機の POWER スイッチを「OFF」にした状態で行ってください。

POWER スイッチを「ON」にする際には突然大きな音が出ないよう、MASTER VOLUME つまみ (12) を最小にしてください。

内部回路保護のため、電源を入れて約 3 秒間は音が出ません。

③～⑥ INPUT 1 ～ 4 ジャック

音声入力端子です。マイク、大正琴、キーボード、CD プレイヤーといったマイクレベルからラインレベルまでの機器を接続できます。端子はモノラル標準ジャックです。

⑦ LINE OUT ジャック

録音機へ接続して録音したり、他のアンプへ接続して更に大音量を得たりするための出力端子です。出力はラインレベルで、端子はモノラル標準ジャックです。

⑧～⑪ VOLUME 1 ～ 4 つまみ

各入力端子に接続された機器の音量を調節します。

0 で音は出なくなり、つまみを右に回すに従って音量が大きくなります。

⑫ MASTER VOLUME つまみ

本機全体の音量を調節します。

VOLUME 1 ～ 4 つまみを音が歪まない範囲でできるだけ大きく設定し、主音量つまみで程良い音量に聞こえるよう調整することで、最も雑音を少なくすることができます。

また、一時的に消音したい場合にこのつまみを使えば、VOLUME 1 ～ 4 つまみのバランスを保った状態で消音を行うことができます。

⑬～⑭ TONE 1-2 つまみ

INPUT 1 及び INPUT 2 の音質を調節します。

中央位置が標準の設定です。BASS を上げると音の量感が増し、下げるとマイクを接続した場合の風雑音を軽減することができます。TREBLE を上げると音のきらびやかさが増し、下げると柔らかい音になります。

BASS つまみには特別な設定があります。中央では電氣的に平坦な特性です。「◁」位置に設定すると、重低音が補正され聴感的に平坦な特性が得られます。

⑮～⑯ TONE 3-4 つまみ

INPUT 3 及び INPUT 4 の音質を調節します。

⑰ REV. スイッチ

INPUT 3 及び INPUT 4 に残響効果をつけるかどうかを設定します。このスイッチを「OFF」にすると、INPUT 3 及び INPUT 4 には残響効果はかかりません。

このスイッチの位置に関わらず、INPUT 1 及び INPUT 2 には常に REVERB つまみ (18) で設定した残響効果がかかります。

⑱ REVERB つまみ

音にコンサートホールのような残響効果を付けます。

0 で残響効果はかからず、つまみを右に回すに従って効果が深くなります。

⑲ ハンドル

運搬用のハンドルです。

⑳ ポールソケット

スピーカースタンド (別売 TS-70B) に取り付けるためのソケットです。外径 35mm のポールに対応しています。



注意

スピーカースタンドを使用する場合には、以下の点にご注意ください。

- ・ 平らな場所に設置して、ぐらつきのないことを確認する
- ・ スタンドの高さ調整は最低 (TS-70B) または 1.3m 以下 (他モデル) の状態で使用する (前ページ下図)
- ・ スタンドの脚は最大に開いた状態で使用する
- ・ 設置したスタンドの周りは、人の立ち入りを制限する
- ・ 1 台のスタンドに、1 台の本機を設置する
- ・ 付属のネジがある場合は必ずそれを使用する
- ・ 固定用のネジはしっかり締める
- ・ スタンドを移動したり高さを調整したりする前に、本機をスタンドから取り外す

高温保護回路

本機を大音量で長時間連続使用すると、内部温度が上昇し、動作を停止することがあります。このような場合には、本機の温度が下がり、動作が再開されるまでしばらくお待ちください。再三にわたり本機が動作を停止する場合には、音量を下げてご使用ください。

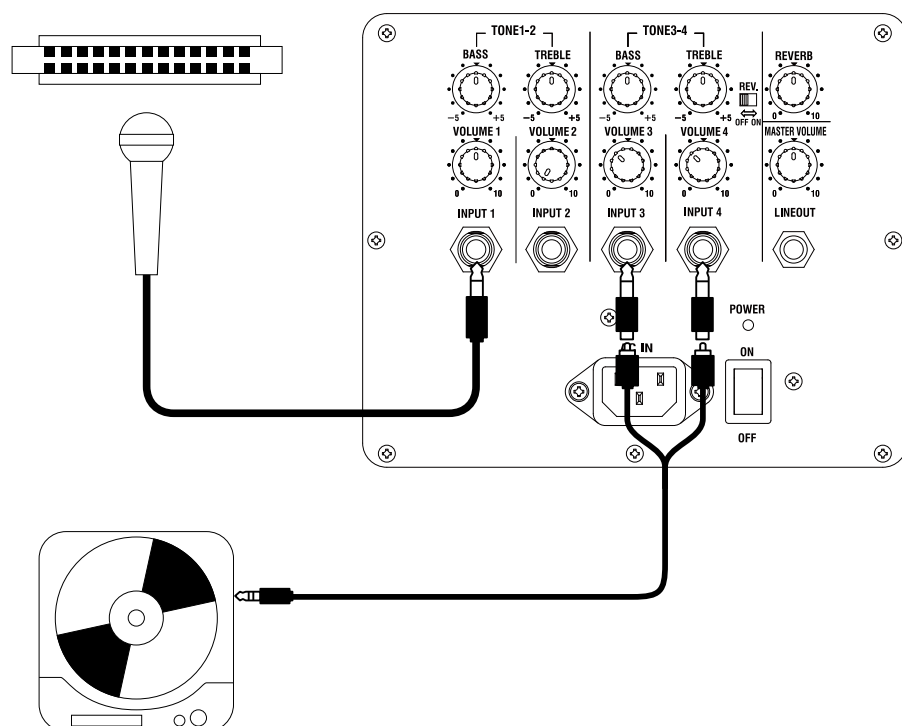
温度低下を待つ間に POWER スイッチを切る必要はありません。

H F プロテクト

HF プロテクトとは、高音の過大入力から高音用スピーカーを保護する機能です。

VOLUME つまみが上がった状態で INPUT プラグの抜き差しを行ったり、プラグの先端を手で触れたりすると、保護機能が働きの無音状態になることがあります (数秒後、自動的に復帰されます)。

ハーモニカソロでの使用例



ハーモニカ用マイクは ^{インプット} INPUT 1 に接続し、伴奏用として CD プレイヤーなどを使用する場合には INPUT 3 と 4 に接続します。これにより、ハーモニカと伴奏とで音質調整が別々に行えます。

本機の入力端子は標準ジャックですが、ポータブル CD プレイヤーの出力端子はステレオミニプラグであることが多いので、ステレオミニプラグ対ピンプラグ×2の接続コードを1セット、ピンジャック対標準プラグのアダプター2個を使用することにより接続できます。

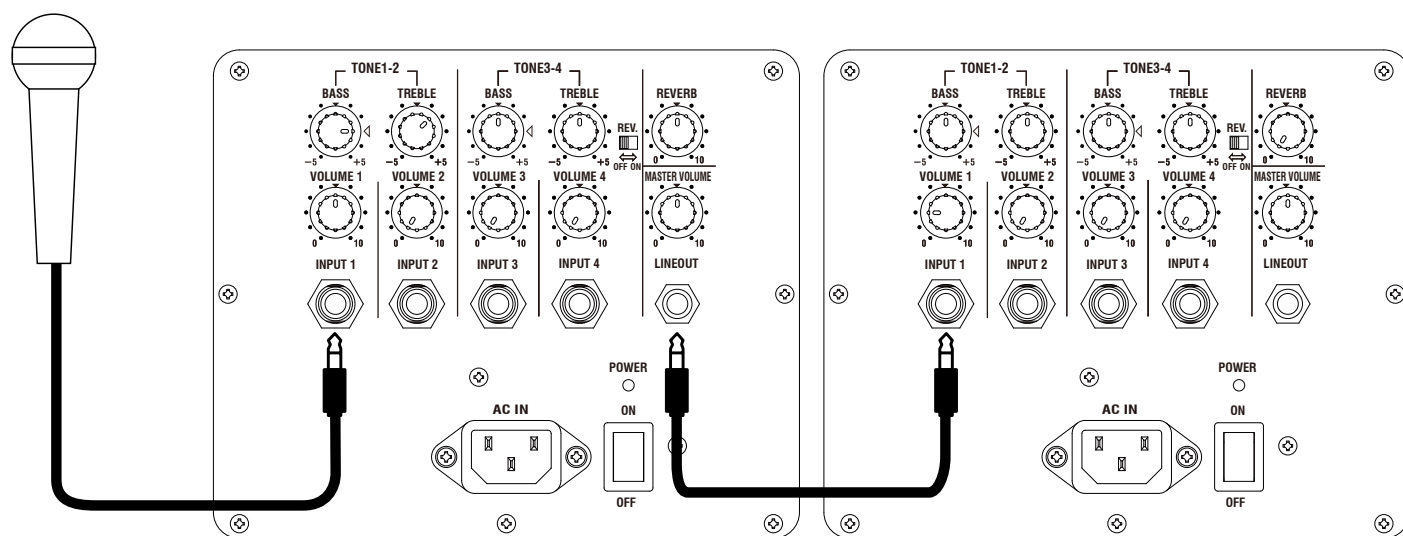
マイクの出カレベルは小さいため ^{ボリューム} [VOLUME 1] つまみは大きく、CD プレイヤーの出カレベルは大きいので [VOLUME 3] [VOLUME 4] つまみは小さめに設定します。

残響をハーモニカだけにかけ、伴奏にはかけたくない場合は、[REV.] スイッチは ^{リバーブ} オフにしておきます。

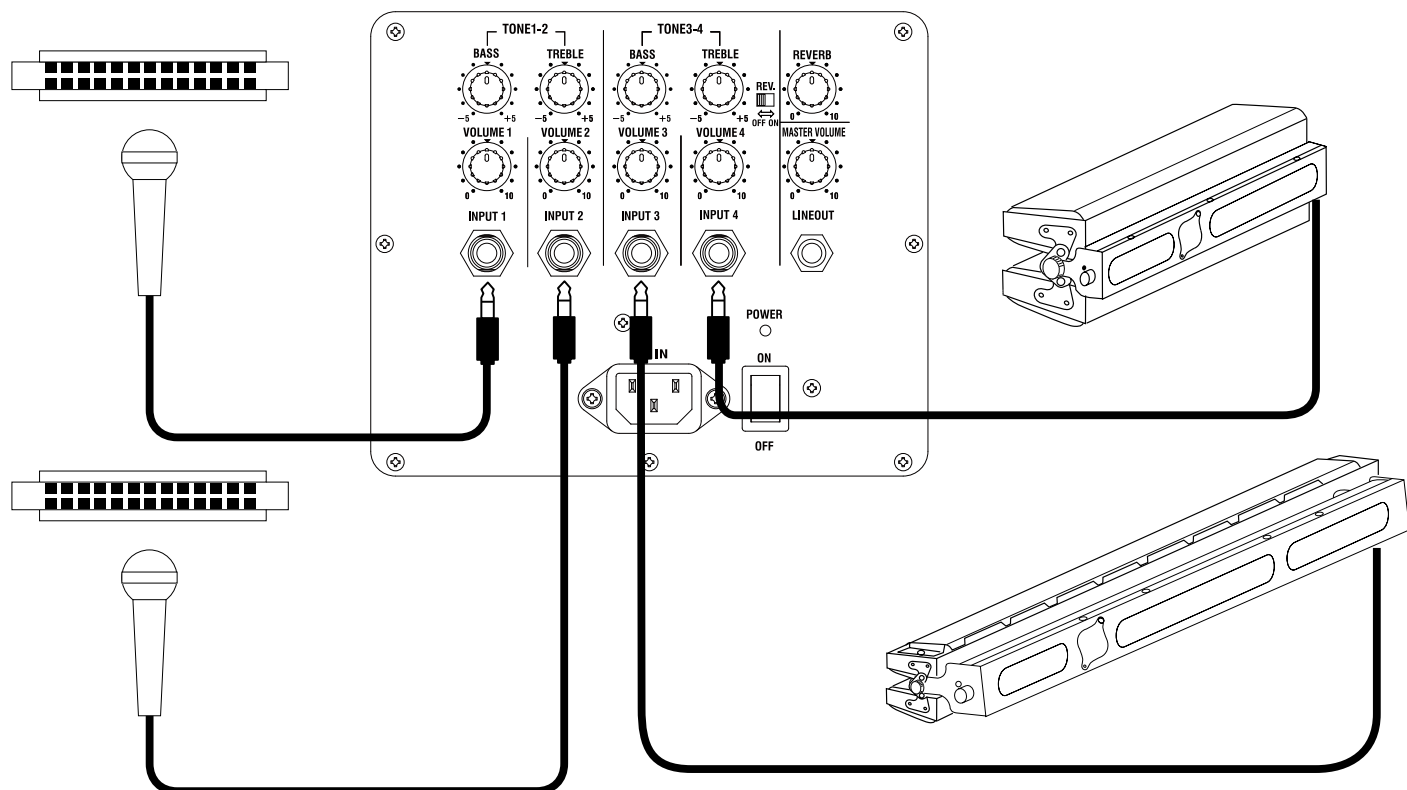
本機を連結してパワーアップする

本機1台のみで音量が不足する場合は、^{ラインアウト} LINE OUT ジャックから子機として用意したもう1台の SPA-150R-L の ^{インプット} [INPUT 1] ジャックへ接続することでパワーアップが図れます。この場合、子機側の ^{ボリューム} [VOLUME 1] を2（9時方向）、^{マスターボリューム} [MASTER VOLUME] を中央に合わせます。

不要な音質の変化を避けるため、子機の TONE つまみは中央に設定します。



ハーモニカアンサンブルでの使用例



上図はメロディ用ハーモニカ 2 台、コードハーモニカ、そしてバスハーモニカによるハーモニカルテットの接続例です。メロディ用マイクは インプット [INPUT 1] と [INPUT 2] へ、コードハーモニカ用マイクは [INPUT 3]、バスハーモニカは [INPUT 4] へ接続します。

メロディ用ハーモニカに使用するマイクはダイナミック型が好適です（カラオケでも良く使われます）。XLR コネクター仕様のマイクの場合は、XLR メス対標準プラグのマイクケーブルをご使用ください。

弊社製コードハーモニカ SCH-48 にはハーモニカマイク HMC-2 が適合します。また SCH-24 には HMC-4 が適合します。

弊社製バスハーモニカ SDB-39 にはハーモニカマイク HMB-1 が適合します。また SDB-29 には HMB-3 が適合します。

演奏前にコード及びバスハーモニカマイク付属のボリュームは中央にしておくと、演奏中に手で音量を調整し易くなります。

接続が終わったら電源を入れ、本機の全つまみを中央に設定します。演奏者に音を出してもらい、1 から 4 の各 [VOLUME] つまみで音量バランスを調整します。

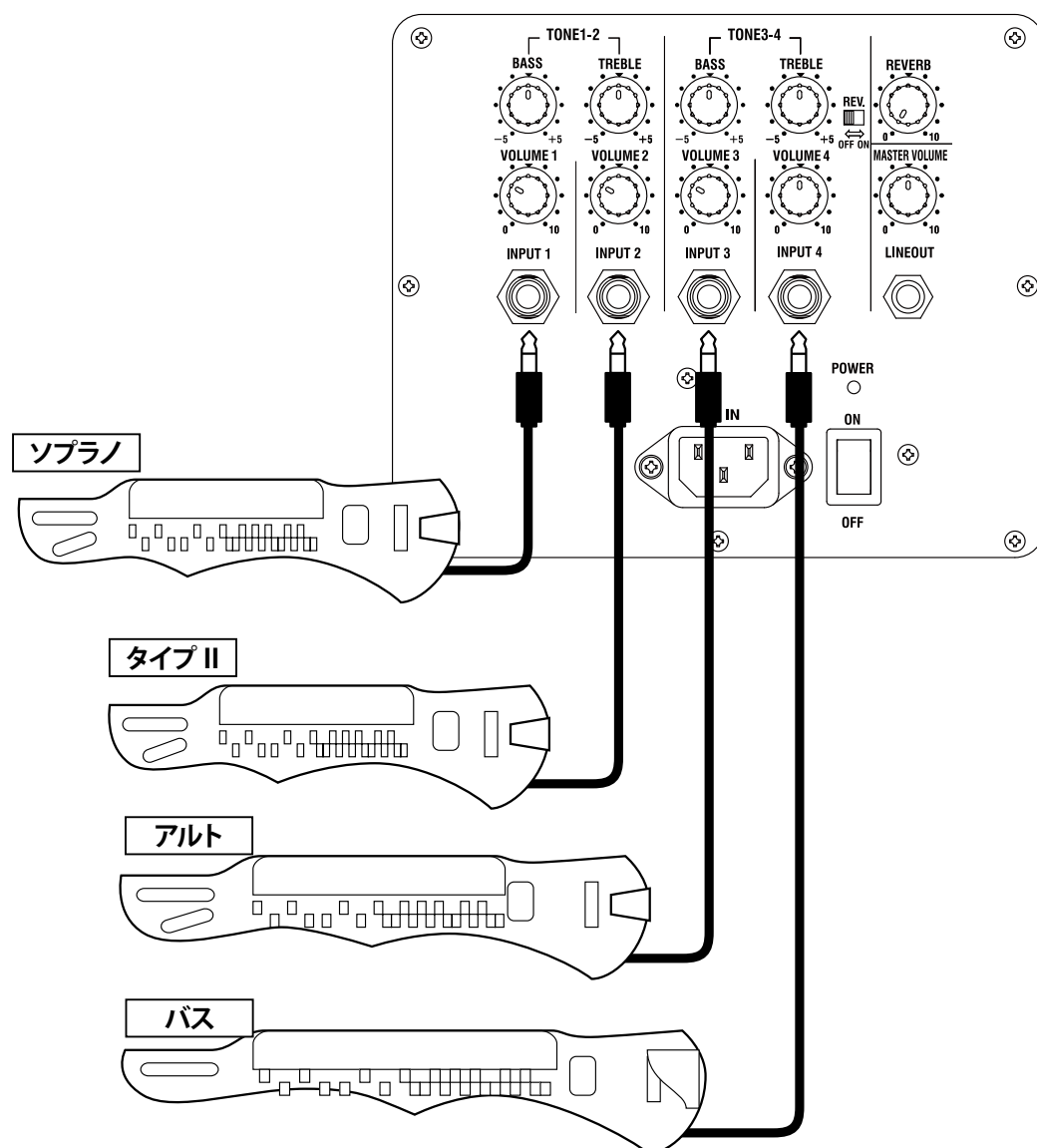
全体の音量は マスター ボリューム [MASTER VOLUME] つまみで設定します。

残響効果をかけるには リバーブ [REVERB] つまみを右に回します。

リズム感をはっきりさせるため、残響をメロディだけにかけ、コード及びバスハーモニカにはかけたくない場合は、リバーブ [REV.] スイッチは「OFF」にしておきます。

大きな会場での演奏では、コードハーモニカ及びバスハーモニカそれぞれ専用にアンプを使用すると、パワーに余裕ができ、またそれぞれの演奏者自身の演奏を聞き取り易くなり、より良い結果が得られます。

大正琴アンサンブル（小編成）での使用例



本機は4チャンネルの入力を備えていますので、4台までの楽器を直接接続することができます。各 INPUT ジャックとも全ての電気大正琴に対応しておりますので、大正琴を接続後、各楽器とも適切な音量バランスになるよう各 [VOLUME] つまみを調節します。その後、全体の音量を [MASTER VOLUME] つまみで設定します。小会議室程度であれば、本機1台で十分な音量を得られます。

例えば、こはくシリーズのアンサンブルを行う場合には上図のようにソプラノを [INPUT 1]、タイプIIを [INPUT 2]、アルトを [INPUT 3]、バスを [INPUT 4] へ接続し、[VOLUME 4] つまみを他のチャンネルよりも大きめに設定します。

あまり音圧が感じられないのに「パチパチ」と歪む場合は、各 [VOLUME] つまみを歪まない位置まで左へ回し、[MASTER VOLUME] つまみを右に回して必要な音量を得ます。

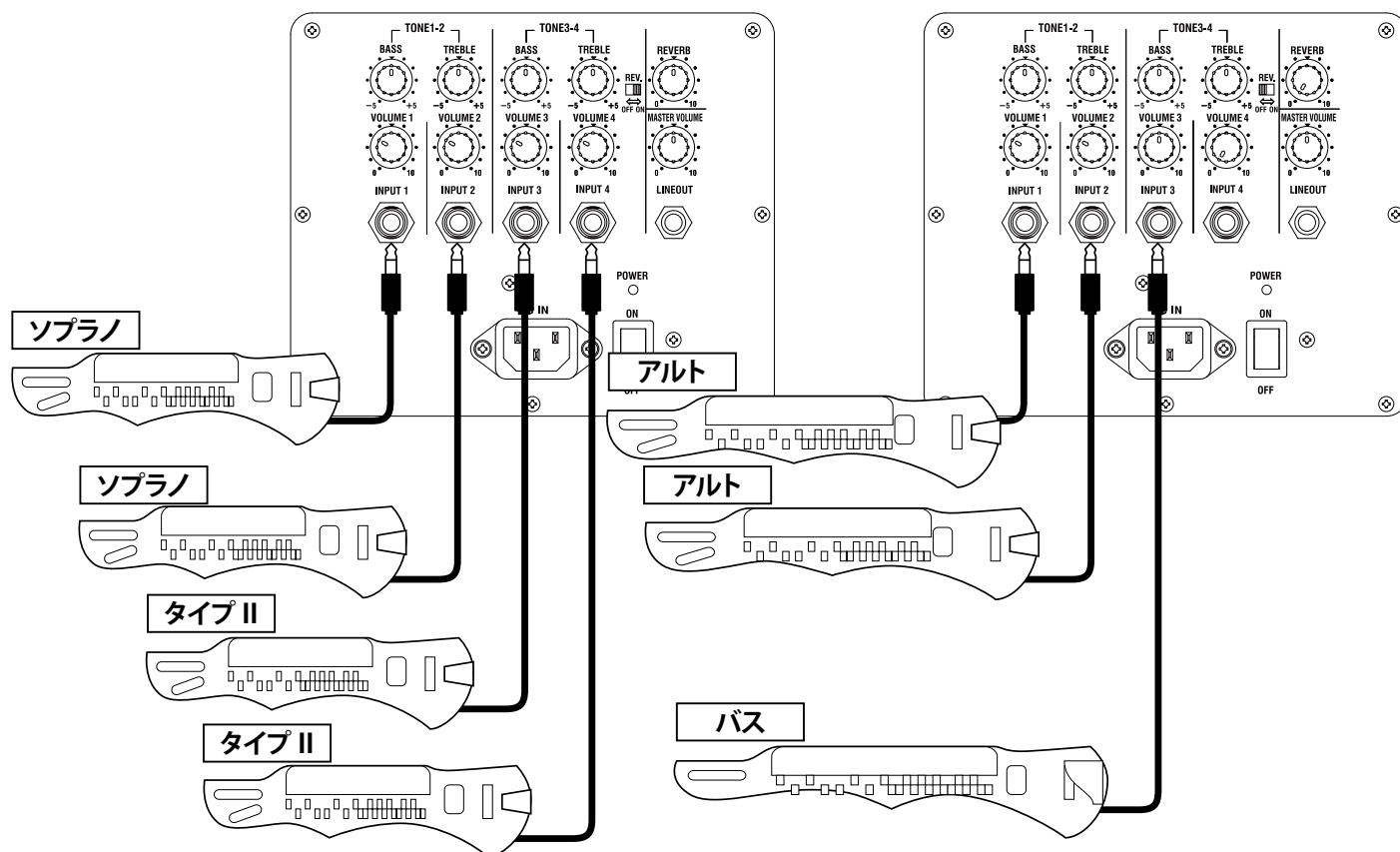
「ザー」という雑音が耳に付く場合は、[MASTER VOLUME] つまみを雑音が気にならない位置まで左へ回し、各 [VOLUME] つまみを右に回して必要な音量を得ます。

残響効果をかけるには、[REVERB] つまみを右へ回します。

上図の編成でソプラノ、タイプIIのみに残響効果をかけるには、[REV.] スイッチを「OFF」に設定します。

また、本機にソプラノなど同パートの楽器を4台接続し、全ての入力に残響効果をかけるには、[REV.] スイッチを「ON」に設定します。

大正琴アンサンブル（大編成）での使用例



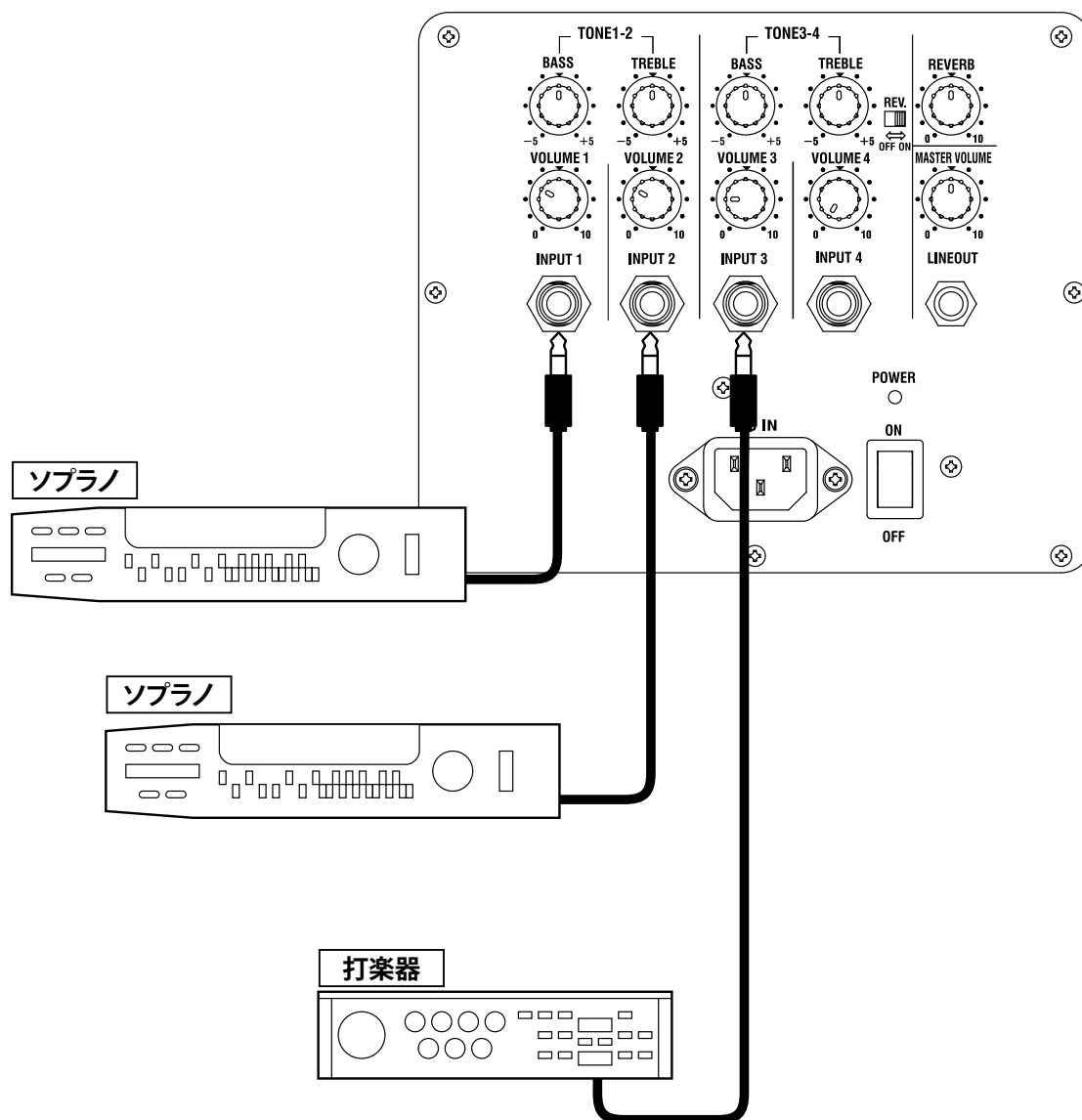
電気大正琴の台数が多い場合、本機を複数台用意しパート別に分けて使用すると、立体感があり明瞭度が高い再生が可能です、1台ごとの音量調整も簡単です。

特に広い会場において、この接続方法は接続ケーブルを引き回す距離が短くて済み、またそれぞれの演奏者自身の演奏を聞き取りやすいため便利です。

上図はこはくソプラノ^ツ2台、タイプII^ツ2台、アルト2台、バス1台を2台の本機に振り分けた接続例です。

この接続のしかたであれば、パート別に [BASS]、[TREBLE] のTONEつまみを使って音づくりが可能になります。

大正琴邦楽アンサンブルでの使用例



上図は 2 台の電気大正琴と電子打楽器 DPS-100「拍調」を使った邦楽アンサンブルでの接続例です。

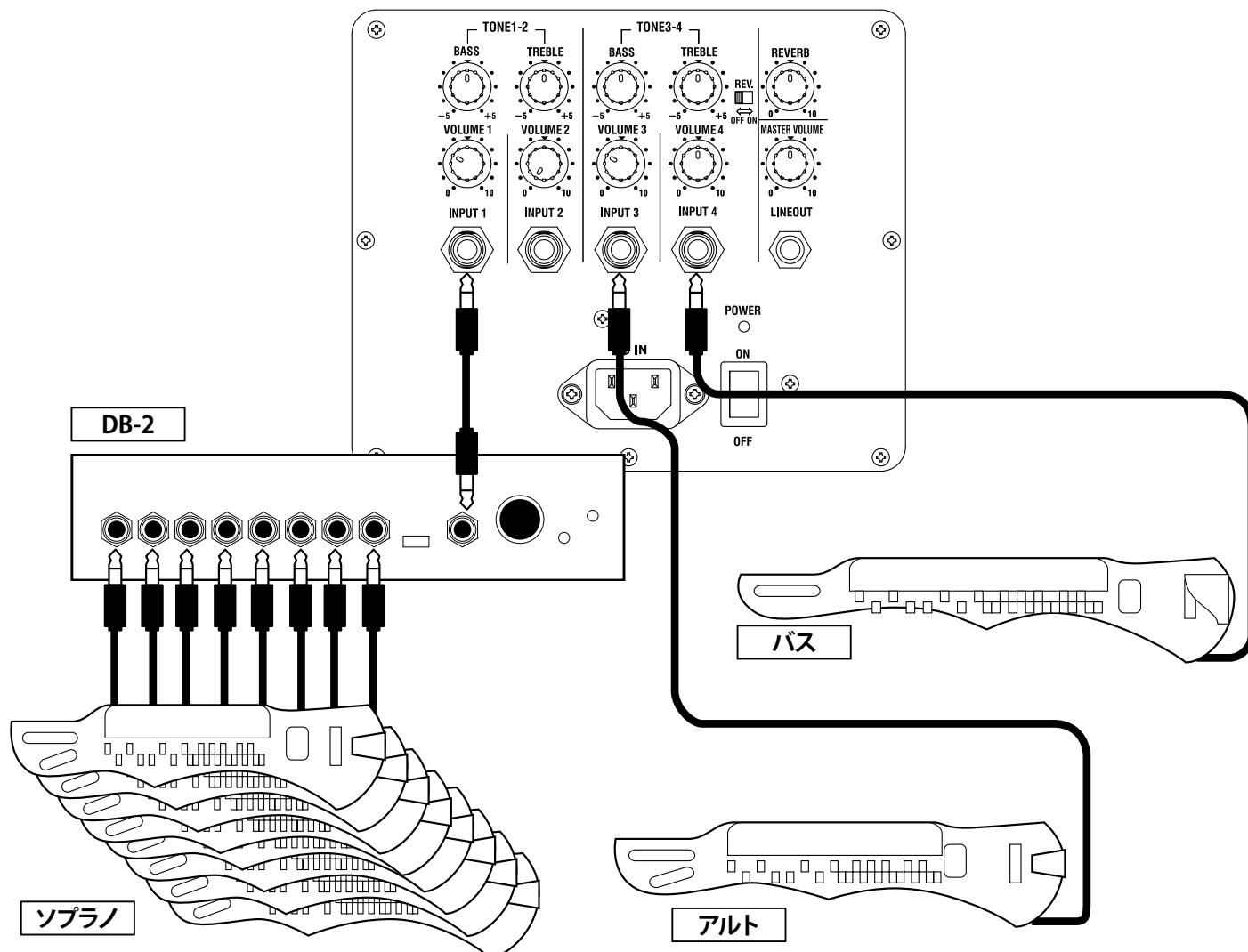
邦楽に於いては音符と音符との「間」が大切で、これを表現するのに本機の残響が活用できます。打楽器のようなすぐに消えてしまう音に対しては特に効果的です。

上図の接続と設定では、全てのパートに残響がかかります。

電子打楽器だけに残響をかけ、電気大正琴には残響をかけたくない場合は、上図とは逆に [INPUT 1] に電子打楽器を、[INPUT 3] と [INPUT 4] に電気大正琴を接続し、[REV.] スイッチを「OFF」にします。

上図の接続例は電気大正琴だけではなく、電気三味線を使用した場合も同様です。

大正琴ダイレクトボックスの使用例



本機に同一機種の電気大正琴を多数接続したい場合は、大正琴ダイレクトボックス DB-2 を使用します。

上図は大正琴教室の練習を想定し、こはくソプラノ 8 台を大正琴ダイレクトボックスを使って接続し、こはくアルト及びバスを本機に直接接続した例です。

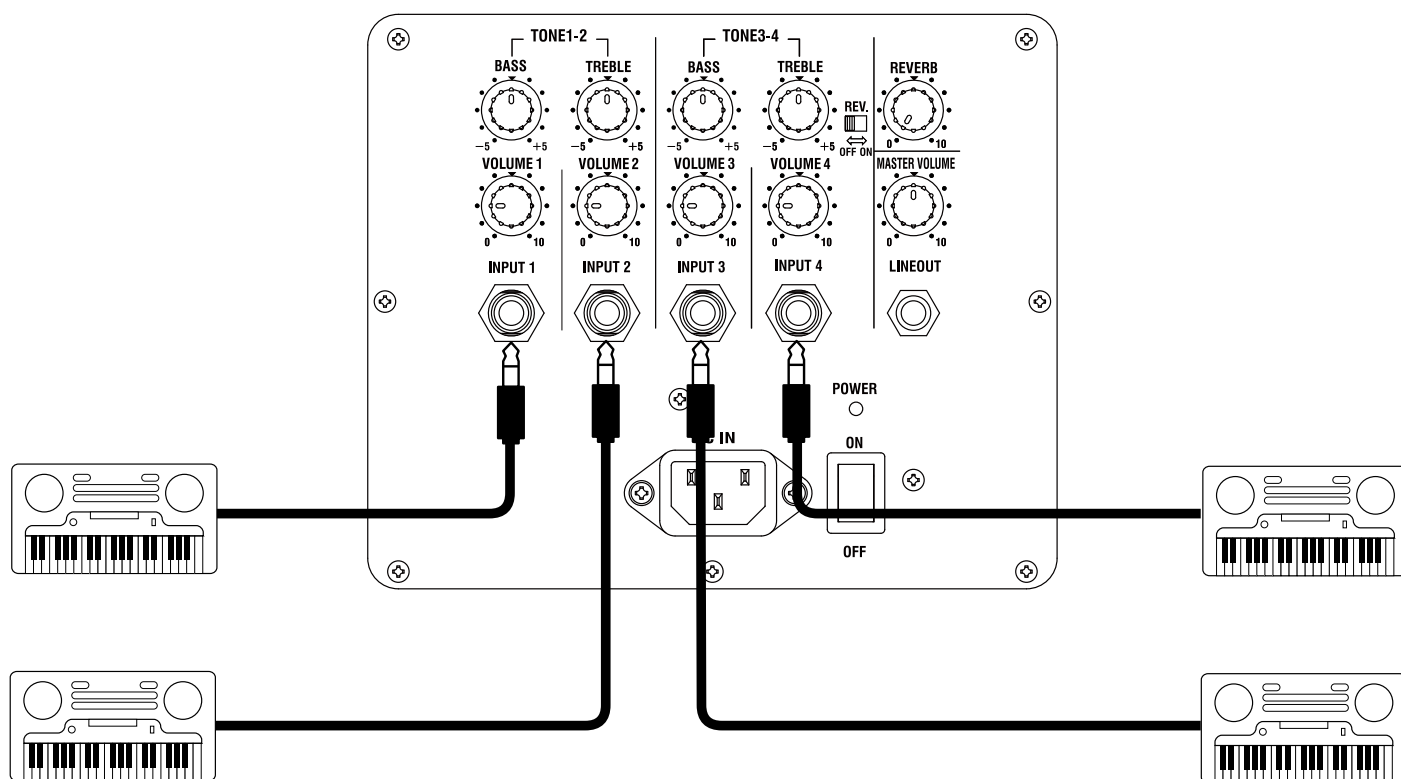
大正琴ダイレクトボックス DB-3 の場合、こはくソプラノ／タイプⅡを合わせて 5 台、アルト 2 台、バス 1 台を 1 つのチャンネルにまとめることができます。

但しこれらのように、本機 1 台に多数の楽器を接続した場合、パート別に複数の本機を使用した場合に比べ、パワーの余裕がなくなり、また各演奏者自身の演奏が聞き取りづらくなります。

あまり音圧が感じられないのに「バチバチ」と歪む場合は、各 [VOLUME] つまみを歪まない位置まで左へ回し、[MASTER VOLUME] つまみを右に回して必要な音量を得ます。

「ザー」という雑音が耳に付く場合は、[MASTER VOLUME] つまみを雑音が気にならない位置まで左へ回し、各 [VOLUME] つまみを右に回して必要な音量を得ます。

アンサンブルキーボードの使用例

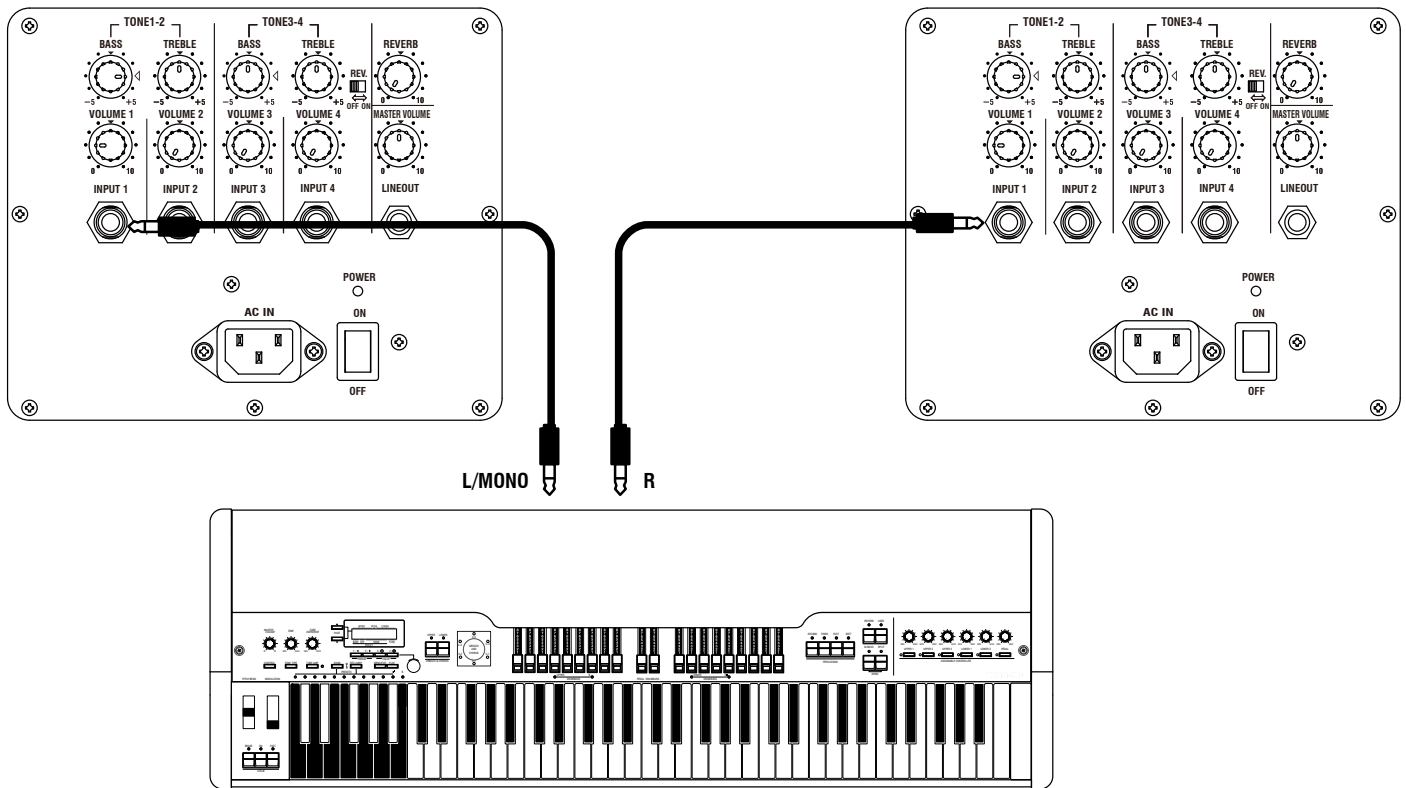


学校でアンサンブルキーボード HEK-3「ハモンド Jr.2」やポータブルキーボードを採り入れたアンサンブルを行うとき、キーボードの内蔵スピーカーだけでは音量が足りない場合には本機を使ってパワーアップをする事ができます。本機1台で通常教室や音楽室では十分な音量を得られます。

キーボードの外部出力レベルは比較的大きいため、[VOLUME] つまみは中央よりやや左に設定します。各キーボードのバランスを調整した後、[MASTER VOLUME] つまみで全体の音量を設定します。

体育館での音楽会など広い会場で多くのキーボードを使って演奏する場合は、本機1台に全ての楽器を接続するのではなく、各楽器に対して1台ずつ本機を使用することで、パワーに余裕のある演奏を行うことができます。

シングルキーボードの使用例



ライン出力を持ったオルガンやシンセサイザー、キーボードは比較的出力レベルが大きい^{ボリューム}ため、本機の [VOLUME] つまみを中央より左に設定すると良い結果が得られます。スピーカーの音量は [MASTER VOLUME] つまみで調節します。

XK-3、XK-3C は特に出力レベルが大きい^{ボリューム}ため、上記の他に楽器の [MASTER VOLUME] つまみを中央以下に設定すると歪みのない音を得られます。

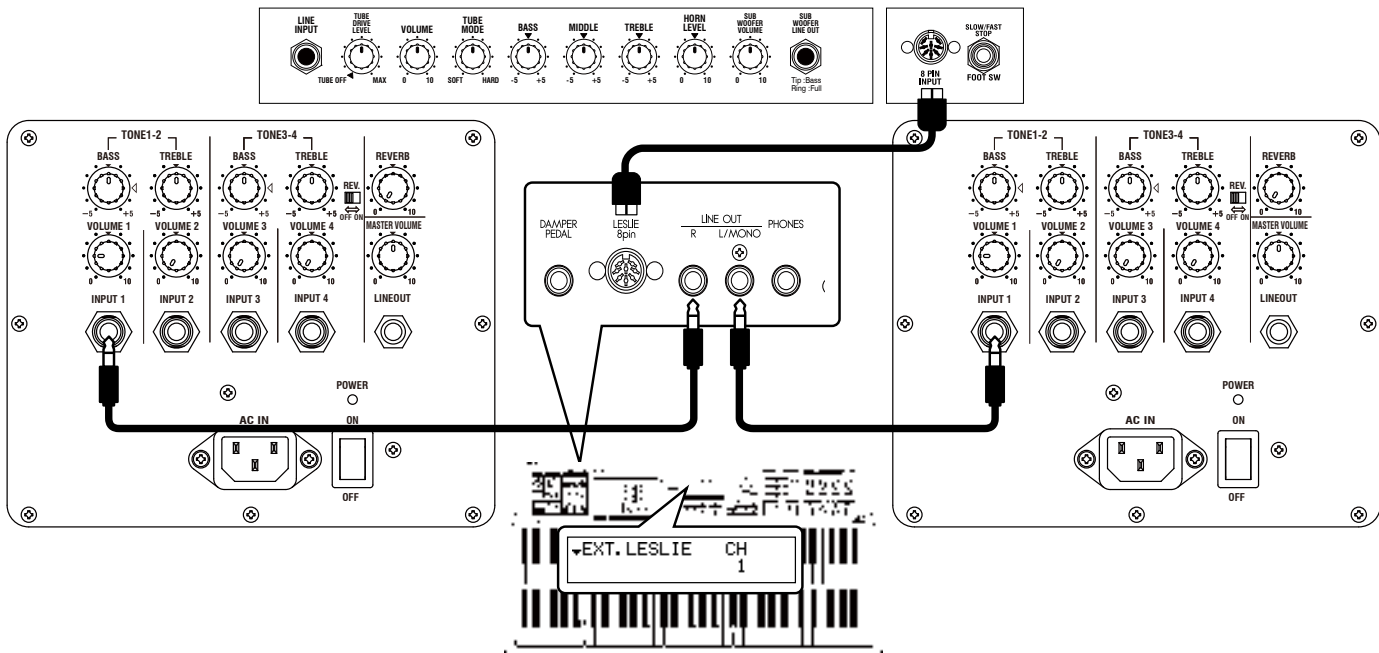
最近のキーボードはステレオ出力を持つものが多い^{ボリューム}ため、上図のように 2 台の本機を用意し、L 及び R の各ジャックをそれぞれの^{ボリューム}本機に接続することにより最大の音響効果が得られます。

本機が 1 台で、キーボードの出力ジャックに “L/MONO” と表示されている場合は、そのジャックと本機の INPUT ジャックとを接続します。この場合、ステレオ音響効果は得られません。

本機が 1 台で、キーボードの出力ジャックに “MONO” という表示が無く単に “L” と “R” である場合は、各ジャックと本機の INPUT 1 及び 2 ジャックを 2 本のケーブルで接続します。

マイクを接続してキーボードを演奏しながら歌う場合は、キーボードは INPUT 3 及び 4 ジャックに、マイクは INPUT 1 及び 2 ジャックに接続します。[REV.] スイッチを「OFF」にし、[REVERB] つまみを時計方向に回すことで、マイクのみに残響効果を加えることができます。

レスリースピーカーのステーションナリーユニットとして



SK1/SK2 や XK-3C など 3 チャンネル仕様のレスリーコネクタを持つ Hammond オルガンとレスリー 3300 や 2101 のように “STATIONARY OUT” ジャックを持つレスリースピーカーをお持ちの場合、本機をストレートなドローバー音やオーケストラ音を再生するための「ステーションナリーユニット」として使用することができます。

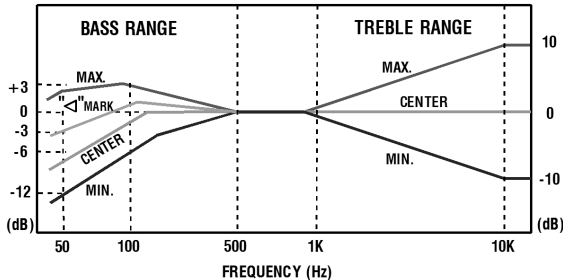
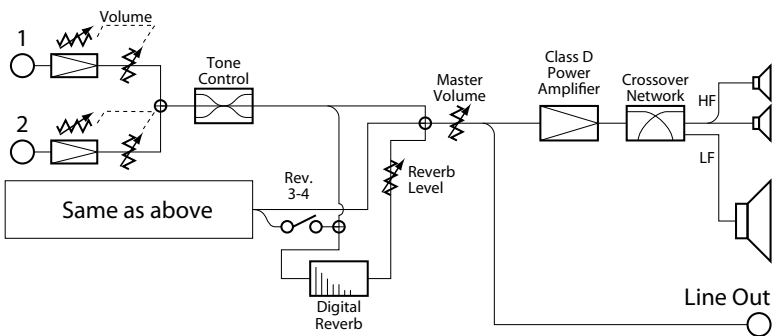
レスリースピーカーの STATIONARY OUT ジャックと本機のインプット エキステルナル レスリーチャンネル ジャックを接続し、Hammond オルガンの “E X T . LESLIE CHANNEL” パラメータを “3” に設定します。

SK1/SK2 の場合は “EXT. LESLIE CHANNEL” パラメータを “1” に設定し、各 LINE OUT 端子と本機の INPUT ジャックを接続します。

Hammond オルガンでロータリー、ステーションナリーの各チャンネルを演奏しながら、各スピーカーの音量バランスを調節します。

上図は SK2 とレスリー 3300 シリーズ、及び本機 2 台での推奨設定です。

ブロックダイアグラム、周波数特性



スピーカー

25cm ハイパワーウーハー、10cm ツィーター× 2

形式

2ウェイ、バスレフ形

定格出力

150W（ミュージック）、200W（ピーク）

最大音圧レベル

119dB SPL (1m)

再生周波数帯域

45Hz ～ 15kHz

コントロール

VOLUME(1 ～ 4)、BASS/TREBLE(1-2、3-4)、REVERB、REV.、MASTER VOLUME、POWER

トーンコントロール

チャンネル 1-2、3-4 独立

BASS: $\pm 8\text{dB}$ at 50Hz、TREBLE: $\pm 10\text{dB}$ at 10kHz

リバーブ

デジタルリバーブ（チャンネル 3-4 は ON/OFF スイッチ付き）

入出力端子

INPUT 1 ～ 4

感度 -40dBu(8mV) ～ +16dBu(5V)、インピーダンス 50k Ω 、モノラル標準ジャック

LINE OUT

出力レベル 0dBu(0.775V)、インピーダンス 1k Ω 、モノラル標準ジャック

電源

AC100 ～ 240V 50/60Hz

定格消費電力

45W

外形寸法

幅 32 × 高さ 61 × 奥行 31cm

重量

15kg

その他

スピーカースタンド (35mm 径) に対応（オプション：レスリースピーカー専用スタンド TS-70B 推奨）

本機の特長

- 高品質デジタルアンプ（D 級アンプ）を使用しており小音量時からフルパワー近くまで高品位な音色が得られます。同時に低消費電力、軽量化も実現しました。
- 25cm 特製ハイパワースピーカー専用に設計されたキャビネットは綿密に音響チューニングが施されています。その結果、大型スピーカーが鳴っているような迫力ある低音が期待できます。
（注）スピーカースタンド使用時など、設置環境によっては低音が出にくい場合もあります。
- 4 チャンネルミキサーを内蔵し、すべての入力がマイクか

- らラインまで対応しているので大正琴アンサンブルやキーボードの外部アンプなどさまざまな用途に使用可能です。
- デジタルリバーブを搭載。ハーモニカ演奏用、ボーカルアンプとしても最適です。
 - トーンコントロールはチャンネル 1-2 と 3-4 の 2 グループに独立して装備。

保証規定

1. 説明書の注意に従った正常な使用状態で故障した場合は、お買い上げ後 1 年間、無料で修理いたします。
 2. 保証期間内に万一本製品が故障した場合には、お買い上げの販売店または取扱説明書に記載の鈴木楽器各営業所にご依頼の上、修理に関して本証をご提示ください。
 3. 保証期間内でも次の場合は有料修理になります。
 - イ お買い上げ後の輸送、移動時のお取り扱いが適当でないために生じた故障、損傷の場合。
 - ロ 誤用、乱用および取扱い不注意による故障、損傷の場合。
 - ハ 火災、地震、水害及び盗難などの災害による故障。
 - ニ 離島および離島に準じる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
 - ホ 不当な修理や改造及び異常電圧に起因する故障。
 - ヘ 本証の提示がない場合及び必要事項（お買い上げ日、販売店名等）の記入がない場合。
 4. 本証は日本国内にのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- ※この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

お客様へのお願い

1. 本証にお買い上げ日が記入されているかお確かめください。
2. 本証は、特別な場合（天災、盗難等による消失）を除き再発行致しかねますので、大切にご保存ください。
3. ご転居後の故障の場合の修理については、取扱説明書に記載の当社営業所にお申し付けください。

アフターサービスについて

この商品には保証書を下記添付しております。所定の事項の記入後、記載内容をご確認の上大切に保管して下さい。

保証書の記載内容によりお買い上げ販売店が修理いたします。その他、詳細は保証書をご覧ください。

保証期間が切れましても、修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理いたします。

アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはもよりの営業所にお問い合わせ下さい。

株式会社 鈴木楽器製作所

〒430-0852 静岡県浜松市中区領家2-25-12 ☎(053)461-2325

鈴木楽器販売株式会社

本社	〒430-0852 静岡県浜松市中区領家 2-25-11	☎(053)463-6601
北海道営業所	〒064-0809 北海道札幌市中央区南9条西 11-1270-5	☎(011)551-8911
東北支店	〒982-0031 宮城県仙台市太白区泉崎 2-1-7	☎(022)244-3121
北関東営業所	〒336-0021 埼玉県さいたま市南区別所 1-12-18	☎(048)710-7178
東京支店	〒141-0001 東京都品川区北品川 5-4-14	☎(03)5792-8051
中部支店	〒430-0852 静岡県浜松市中区領家 2-25-11	☎(053)463-6602
名古屋営業所	〒465-0051 愛知県名古屋市中区社が丘 1-405	☎(052)703-7715
大阪支店	〒564-0043 大阪府吹田市南吹田 5-30-3	☎(06)6190-7911
四国営業所	〒760-0063 香川県高松市多賀町 2-17-13	☎(087)837-6070
広島営業所	〒733-0003 広島県広島市西区三篠町 1-2-24	☎(082)509-2225
九州支店	〒812-0894 福岡県福岡市博多区諸岡 1-6-23	☎(092)573-7251
熊本営業所	〒862-0912 熊本県熊本市錦ヶ丘 5-27	☎(096)367-8381



<http://www.suzuki-music.co.jp/>

メールでのお問い合わせは下記まで
info@suzuki-music.co.jp

スズキお客様ご相談窓口



0120-7-94019

月曜日～金曜日（祝祭日を除く）

9:00～12:00 13:00～16:00

事務所移転等のため、上記住所・電話番号が変わる場合がございます。
最新の情報に関しましては、弊社ホームページをご覧ください。

Printed in Japan